

伝えて・守る 久井町の宝

夕日の赤を映す水をはった五月の田、太陽の光をいっぱいを受けた稲の緑輝く七月の田、稲穂をたれてまるで黄金のように輝く九月の田。ぼくは、こんなにも美しい田が広がっている風景こそが久井の宝だと思います。

今年ぼくは、長い休校中、三十町以上の田植えを手伝い、田の周りの草刈りをしました。田植えが始まる日、そこには、苜原の人がたくさん集まっていました。「おっ、吉国さんの孫かあ。」「無理すんなよ。」「知っている人も知らない人もみんな優しく声をかけてくれました。田植え機の上はとても狭く、そこでの作業は思った以上に大変でした。けれども、田植え機が通った後ろにまっすぐに伸びる苗のきれいな列を見ると、うれしくなってやめたいとは思いませんでした。少しだけぼくも田植え機を運転させてもらいました。ぼくが運転した後ろには、ひどく曲がった苗の列ができていました。ぼくは、一列の苗の線を作るにも技術が必要なんだと思いました。草刈り機で田の周りの草を刈る時には、田におちたらどうしようと思わずにヒヤヒヤしました。草刈り機をしつかりつかみ、力を入れると、手にマメがたくさまできました。田植えの最後の日、おじいちゃんがうれしそうに「苜原の後継者がきたぞ。」と言いました。周りの人もうれしそうに微笑んでくれました。

ぼくは、この田植えの経験を通して、ぼくが大好きな久井の風景は、そこに「あるもの」ではなく、そこに住む人々が「守り伝えてきてくれたもの」なのだと分かりました。だから将来ぼくも、久井の宝である田の風景を守り伝える一員になりたいと思います。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第43回 —

「SDNのあいさつ」で町を明るく

田野浦小学校では、児童会を中心に、あいさつに力を入れています。なぜ、あいさつに力を入れているのかというと、田野浦小学校をあいさつのあふれる学校にして、田野浦の地域を明るくしたいと思ったからです。あいさつをするとその場の雰囲気明るくなり、その日のスタートを気持ちよく切ることができます。また、「おはようございます。」と元気に言われると、だれもがうれしい気持ちになると思います。

田野浦小学校では、「SDN」を心がけています。「SDN」とは、「S」さきに「D」だれにでも「N」なんどでも」という意味です。このあいさつを実現するために、児童会役員六人が毎週月・水・金曜日に玄関に立ち、全校児童にあいさつをして意識付けを行っています。また、呼びかけのポスターを作成し、各学級であいさつのふり返りカードを配り、「SDN」ができたかどうか、ふり返ってもらっています。あいさつ運動は児童会だけでなく、私達をいつも見守ってくださいという地域の方々も一緒に行っています。

あいさつ運動を続けていると、あいさつ運動をする前よりも、みんなのあいさつに対する意識が変わったと思います。なぜなら、あいさつがあちらこちらから聞こえ、学校全体であいさつの輪が広がっていると、私自身も思うからです。私自身もあいさつ運動を通して、「SDN」のあいさつを意識できるようになりました。これからもあいさつ運動を続け、もっともつとあいさつの輪を増やし、田野浦小学校そして三原市全体をあいさつであふれる明るい街にしたいと思います。

